

第6回（仮称）第3次都心まちづくり計画検討会

【目次】

- 1 計画最終案について
 - (1) パブリックコメント実施報告 …… P 2
 - (2) 前回説明資料からの変更点 …… P 6

- 2 今後の進め方
 - (1) 推進委員会のイメージ …… P 9
 - (2) 想定スケジュール …… P10
 - (3) 中期アクションプログラムのイメージ …… P11

2026年2月24日

札幌市 都心まちづくり推進室



1 意見募集の実施概要

(1) 募集期間

令和8年（2026年）1月9日（金）から令和8年（2026年）2月9日（月）まで

(2) 募集方法

郵送、持参、FAX、電子メール、ホームページの入力フォーム

(3) 資料の配布・閲覧場所

札幌市役所本庁舎 5階 まちづくり政策局都心まちづくり推進室都心まちづくり課

札幌市役所本庁舎 2階 市政刊行物コーナー

各区役所総務企画課広聴係

まちづくりセンター（本府・中央、東北・東、大通・西、西創成、豊水、苗穂、桑園、鉄西、鉄東）

市公式ホームページ

2 パブリックコメントにおける意見の内訳等

(1) 意見提出者数及び意見提出件数

意見提出者数 7人 / 意見提出件数 12件

(2) 意見提出者の提出方法の内訳

ホームページの入力フォーム 5件 / 郵送2件

1 計画最終案について

(1)パブリックコメント実施報告

3 意見の概要及び当該意見に対する札幌市の考え方（案）

章・項目	意見の要約	札幌市の考え方（案）
第1章	<ul style="list-style-type: none">北海道大学周辺まで交流拠点を広げるべきである。	<ul style="list-style-type: none">北海道大学周辺については、都心周辺の高次機能交流拠点として、都心との連携を強化していく方針です。
第4章 (目標1に関連するもの)	<ul style="list-style-type: none">宿泊施設整備やMICE誘致にあたり、IR（カジノ）を含まないことを明記すべきである。また、行政が行うホテル整備支援は富裕層向けよりもバリアフリー対応を重視すべきである。「エンターテインメントなどを楽しむことができる都心ならではの施設」や「ナイトタイムエコノミー」の推進にあたり、IR（カジノ）や風俗産業を含まないことを明記すべきである。「都心への機能集約」や「高度利用」という基本的な方向性に強く賛同するが、都心部の再開発促進のため、高さ規制撤廃等の大胆な規制緩和や、地下・屋内動線拡充の義務化など、より実効性の高いインセンティブ設計を行うべきである。	<ul style="list-style-type: none">本計画における宿泊施設の環境充実やMICEの推進は、都心に必要な高次都市機能の集積を図るものであり、IR（統合型リゾート）の整備を前提としたものではありません。また、宿泊施設の整備にあたっては、本計画の「誰もが快適に過ごせる環境の整備」の方針に基づき、バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入を引き続き促進してまいります。本計画で掲げる「エンターテインメント」や「ナイトタイムエコノミー」は、文化芸術、スポーツ、食、夜間観光など、札幌ならではの都市活動や魅力的なコンテンツの創出による経済活性化を意図したものであり、ご指摘のような特定の業種を想定したものではありません。引き続き、市民や来街者が安心して楽しめる健全なにぎわいの創出に取り組んでまいります。都心における高次都市機能の集積に向けては、「都心における開発誘導方針」等に基づき、容積率緩和などのインセンティブを講じています。追加施策については、今後中期アクションプログラムを策定する中で、都市計画マスタープラン等の上位計画と整合を図りながら、良好な景観形成や周辺環境との調和も考慮し、検討してまいります。

1 計画最終案について

(1)パブリックコメント実施報告

3 意見の概要及び当該意見に対する札幌市の考え方（案）

章・項目	意見の要約	札幌市の考え方（案）
第4章 (目標2に関連するもの)	<ul style="list-style-type: none">● 自転車通行空間の確保について、現状の矢羽根型路面表示だけでなく、山形市のようにゴム製のポールなどで車道と明確に区別すべき。● 健康増進や医療費抑制などの広い視点から自転車利用を積極的に後押しするため、利用しやすい駐輪環境を整えてほしい。	<ul style="list-style-type: none">● 札幌市は積雪寒冷地であり、冬期間における除雪作業の支障となることから、車道と路肩の間に連続してポールを設置することは難しいと考えておりますが、路上駐車の抑制や荷さばき駐車車両の対策、さらには車道幅員構成や車線数の見直しによる道路空間の再配分の可能性を検討することにより、自転車が通行しやすい道路空間の確保に取り組んでまいります。● 本市としましても自転車利用を促進することは重要と考えております。そのため、本計画や札幌市自転車活用推進計画等に基づき、需要に応じた駐輪場の整備やまちづくりと連携した駐輪場の整備などの総合的な駐輪対策を推進してまいります。
	<ul style="list-style-type: none">● 来街者が自由に利用できる空間を作る際には、マナーのない利用者による問題が発生しないように設えの工夫や警備員の巡回などの対策も合わせて検討してほしい。	<ul style="list-style-type: none">● 公開空地等のオープンスペースの整備にあたっては、これまでの事例等を踏まえ、多くの利用者が快適に過ごせるよう、施設管理者と連携しながら設えや運営管理体制を検討してまいります。
	<ul style="list-style-type: none">● 歩行空間の連続性の確保や自動車の速度制限など、歩行者優先の交通政策を進めてほしい。また、バスの便数の確保やそのための運転手不足の解消、利用しやすい料金設定など、公共交通の利用促進や利便性向上につながる取組を進めてほしい。歩行者優先の交通施策を推進してほしい。また、公共交通機関の利便性を向上してほしい。	<ul style="list-style-type: none">● 本計画等に基づき、季節や天候、目的等によって選択性が高い歩行空間を創出するとともに、安全・安心かつ円滑な歩行者動線の充実を図ってまいります。また、公共交通に関しては、本計画や関連計画等に基づき、面的なネットワークの維持や交通結節点の強化など、持続可能な公共交通ネットワークを構築してまいります。

1 計画最終案について

(1)パブリックコメント実施報告

3 意見の概要及び当該意見に対する札幌市の考え方（案）


章・項目	意見の要約	札幌市の考え方（案）
第4章 (目標3に関連するもの)	<ul style="list-style-type: none">● 太陽光発電設備は、電気に変換できなかったエネルギーを排熱として周囲に放出することから、導入拡大に懸念がある。● 制振構造を構成する部材について、過去に製造業者による検査データの改ざんを行った事例があり、採用することに懸念がある。● 大雪で交通がまひしないよう、除排雪の実施や公共交通の維持など、市民生活の足を守る施策を徹底してほしい。	<ul style="list-style-type: none">● 太陽光発電は、太陽の光エネルギーを直接電気エネルギーに変換するクリーンなエネルギー源であり、脱炭素化に有効な手法であると認識しております。● 製造業者による不適切な行為はあってはならないものですが、制振構造は地震による揺れを吸収・抑制するうえで有効な手法の一つと考えております。● 冬期間の円滑な交通確保や公共交通の維持は都心においても重要課題であり、関連する各計画や事業者と連携して取り組んでまいります。
第5章	<ul style="list-style-type: none">● エネルギー系の提案は賛成で、進めたほうがいい。主に第五章に関して「札幌都心にあるべきコンセプト」として、「リトル東京」化を避け、公園都市としての緑の景観、「文化創造と人材育成」や「食」の魅力、インバウンド対応など、札幌独自の個性を強化すべきである。	<ul style="list-style-type: none">● 本計画では「札幌らしさ」の強調を掲げ、「ひと・ゆき・みどり」をキーワードに、緑豊かな空間形成や、食・文化などの地域資源を活かした魅力づくりを進めることとしています。ご提案いただいた視点も踏まえ、他都市にはない札幌ならではの都市ブランド力の強化に取り組んでまいります。

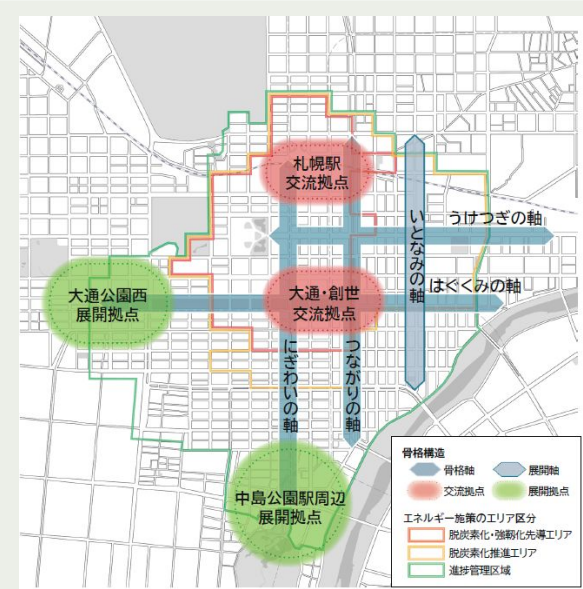
4 今後の策定までの流れ 内部手続きの上、3月中に策定・HP公開予定

1 計画最終案について

(2) 前回説明資料からの変更点

※ページ数は当日配布資料に基づき、パブコメ時点から修正しています

章・項目	ページ数	主な修正点
第1章 計画の目的と位置付け	8 P	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画対象区域図に、周辺の高次機能交流拠点との間に矢印を追加
第2章 現状と課題	32 P	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題のまとめが繋がるよう文言の整理
第3章 理念・目標と都心の構造	38 P	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標関連図の作成 <p>目標間の相乗効果を示すとともに、中央部分に、「誰もが豊かな時を過ごせる札幌都心ならではの暮らし方・働き方」=多様なパブリックライフを想起させるイメージを表現</p>  <p>図3.1.1 目標相関関係図</p>
	39 P	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標1の成果指標の見せ方、説明を修正
	41~43 P	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標2のイメージパースの微修正
	51 P	<ul style="list-style-type: none"> ● 骨格構造とエネルギー施策のエリア区分からなる「最も重要な基本要素」を1枚で示す図を追加



1 計画最終案について

(2) 前回説明資料からの変更点

※ページ数は当日配布資料に基づき、パブコメ時点から修正しています

章・項目	ページ数	主な修正点
第4章 取組の方向	59～60P	● 地区まちづくり推進制度と、エリアまちづくりの現況を追加
	67～91P	● 目標2の各参考事例に解説文を追記。
	71、79P	● 「コラム」及び「参考」の掲載箇所の変更、内容の精査（チカホ、地下ネットワーク）
	77P	● 荷さばき等の項目に含めて記載していた駐車場施策について、独立した項目への変更と内容の充実
	87～91P	● 「空間形成指針」として記載していた内容を「空間形成の基本的な考え方」としてコラムに変更 ● 主要検討路線の設定根拠を記載（第一部会での説明資料ベース）
	94P	● ライフサイクルCO2に関して追記

札幌駅前通地区
沿道地権者や地域関係者による「札幌駅前通まちづくり協議会」を設立。札幌駅前通地下広場や北3条広場の管理運営を担いながら、地域のぎわいや魅力の創出につながる取組のほか、地区まちづくりルール「札幌駅前通北街区地区まちづくりガイドライン」(関連:札幌駅前通北街区地区計画)を策定し、沿道の開発調整などを実施。

時計台周辺地区
周辺地権者で「時計台周辺地区まちづくり協議会」を発足。都市計画提案や、策定した地区まちづくりルール「時計台周辺地区まちづくりルール」(関連:時計台周辺地区地区計画)に基づく開発調整などを実施。

新幹線札幌駅東地区
周辺地権者で「新幹線札幌駅東地区まちづくり協議会」を発足。「サツエキーストまちづくりビジョン」、「サツエキーストまちづくりガイドライン」を策定し、地区内の清掃活動やパブリックスペースを活用した取組などを実施。

創成イースト地区
まちづくり会社「(一社)さっぽろ下町づくり社」を中心に、地区の活性化に資する取組を実施。企業、団体などで、まちの未来像を検討し、新たなまちづくり組織「創成イーストリンク」を設立し、地区内の公園やパブリックスペースで、子どもを中心とした取組などを実施。

Column

空間形成の基本的な考え方

ここまで整理した基本方針や取組の方向等を踏まえ、空間を「点・線・面」に分類して、回遊・滞在機能と交通機能のそれぞれに求められる役割を整理します。
今後、主要検討路線等において空間形成の検討を進めるにあたっては、それぞれの機能強化を図るとともに、都心全体としての両機能のバランスや連携、相乗効果等の視点にも留意していくことが重要と考えます。

	【回遊・滞在機能の視点】	【交通機能の視点】
点	<p>～ 増やす、質を高める ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 魅力的な目的地的な形成 ● 心置きなく滞在できる空間の形成 	<p>～ 強化、充実、適正化する ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 点と点の移動の拠点、沿道へのアクセス環境の確保 ● 交通結核の強化やモビリティスポットの充実 ● 公共交通の乗降や沿道施設への高さなどのアクセシビリティの確保 ● 駐車場の確保
線	<p>～ つなぐ、強化する ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 魅力的な目的地的な形成 ● 緑化などの魅力的な景観、オープンカフェや店舗、広場空間などにより魅力的なストリートが形成され、移動中に楽しめる空間の形成 ● 地区を繋ぐ歩道や建物内の貫通通路など、歩行しやすさのある空間の形成 ● 歩道や歩道、自転車道など、歩行しやすさのある空間の形成 	<p>～ 確保、充実する ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都心に重要な交通モードの通行空間の確保・充実 ● 自転車、公共交通(路面電車、バス、タクシー、新たな公共交通システム(検討中))の通行空間の確保
面	<p>～ ネットワーク化する ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都心全体の回遊促進 ● 大きな単位のブロック(おおむね3×3街区)同士をつなぐ歩道網を強化し、都心全体の異なる回遊性の円滑な回遊を促進 ● 歩道や歩道、自転車道など、歩行しやすさのある空間の形成 ● 歩道や歩道、自転車道など、歩行しやすさのある空間の形成 	<p>～ ネットワーク化する ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な交通モードが充実した、選択性の高い交通ネットワークの形成 ● 適度な交通モードの形成 ● 適度な交通モードの形成

【共通の視点】
～ バランス、連携、相乗効果 ～

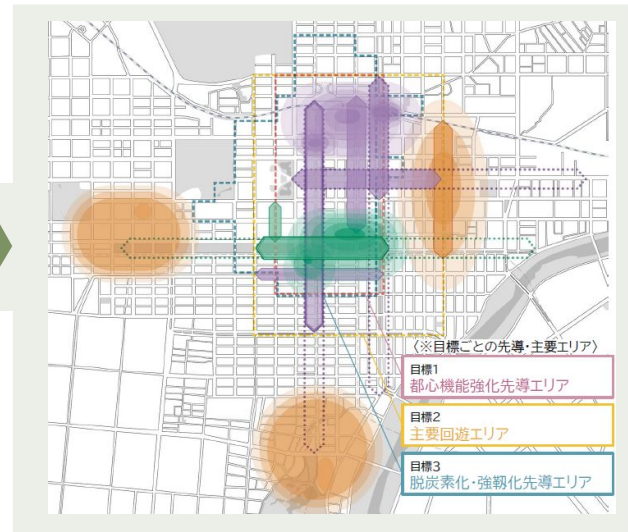
- 各機能のバランスの適正化や連携による相乗効果の発揮
- エリアや都心の特性や沿道環境等により求められる機能に応じた回遊・滞在機能と交通機能のバランスの適正化
- 交通とまちづくりの連携による相乗効果の発揮

1 計画最終案について

(2) 前回説明資料からの変更点

※ページ数は当日配布資料に基づき、パブコメ時点から修正しています

章・項目	ページ数	主な修正点
第5章 重点的に進める取組	124P	<ul style="list-style-type: none"> E！まち開発推進制度の発展、強化のポイントに「空間形成など」エリア価値向上の双方に繋がる良好な開発の誘導と記載
	126～130P	<ul style="list-style-type: none"> 重点の図の見せ方を修正し、重点2の「連携軸」を「ネットワーク」に修正
第6章 取組の進め方	137P	<ul style="list-style-type: none"> 市民・企業・行政などの協働における、それぞれの役割の再整理
	138P	<ul style="list-style-type: none"> <札幌都心の将来イメージ>を示すイラストを作成 <p>計画のまとめとして、序章に記載した二計画を統合したねらいや、各目標を実現した先のまちの姿を表現</p>
全体を通して		<ul style="list-style-type: none"> 概要版の作成 脚注の追加 文言の調整 参考資料の追加 など



(1)推進委員会のイメージ

推進委員会の役割(意見交換のイメージ)

定例で実施するもの(少なくとも年1回)

- ❖ 取組状況の共有(市、エリアマネジメント団体、企業等)
- ❖ モニタリング指標のデータと分析の提示
- ↓
- 計画の進捗管理と課題の整理
- 必要な取組(公民で今後何を実施すべきか)

※検討を深掘りする必要があるプロジェクトは部会を設置

「中期アクションプログラム」の検討
(改定時期に応じて開催)

- ❖ 定例会や部会で意見交換した取組等を基に、短中期的に実施する具体の取組・施策の取りまとめ
- ↓
- 公民で取り組むロードマップの整理
- 取組・施策を評価する指標の設定

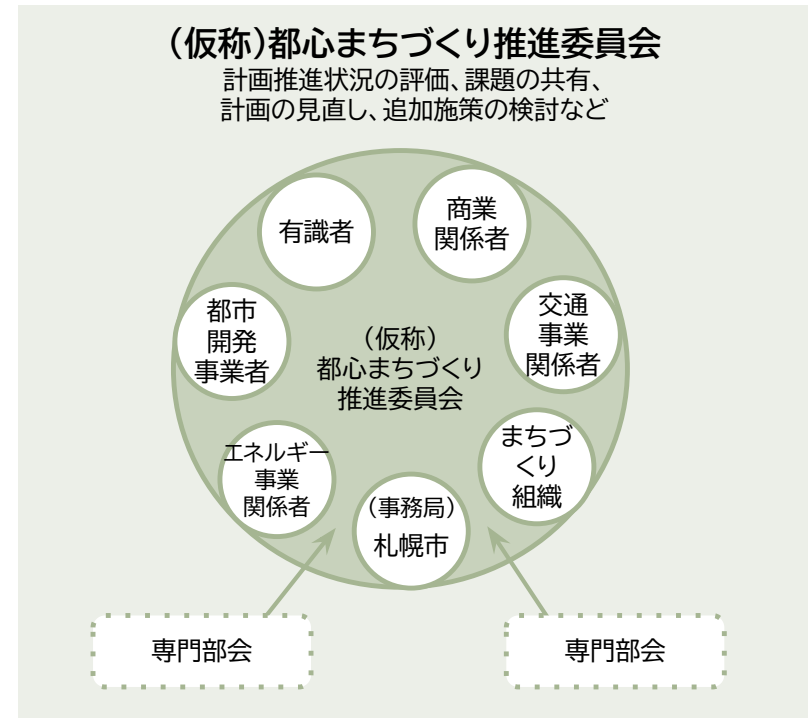


図6.1.3 (仮称)都心まちづくり推進委員会のイメージ

※専門部会のイメージ

個別具体の制度設計や手法の検討、プロジェクトの創出にあたって適宜、部会を設けて検討を深める
必要に応じ、委員会メンバー外の参加も検討

2 今後の進め方

(2) 想定スケジュール

推進委員会の開催スケジュールの想定は以下の通り。

R8に策定する1期目の中期アクションプログラム(以下、中期AP)の後、R9年度に、上位計画である戦略ビジョンに基づくアクションプランの改定作業が見込まれる。予算がからむ新規事業構築はそこでの位置づけが必要になるため、中期APを進めながら適切に反映・連動させていく。

なお、毎年度の予算要求にも新たな取組みを反映できるよう、年度の早い時期に定例会を実施する。



(3) 中期アクションプログラムのイメージ

第3次都心まちづくり計画 中期アクションプログラム(1期目) 構成イメージ

① 位置づけ・期間

(概ね5年間をみすえたものとするが、戦略ビジョンの次期アクションプラン策定後のタイミングでの改訂も予定)
1期目ver1では、既存の取組の整理を行い、新規事業構築に向けた検討すべき課題や優先順位づけを整理

② 都心の現況データ

- ・モニタリング指標による現況の提示
(今後、年1回、推移をみていく基礎的なデータ収集)
例:計画本書第2章で提示しているデータなど
- ・事業化しているプロジェクトの進捗状況
(官民、ソフト・ハードいずれも)

③ 計画に記載した取組の方向ごとに実施する取組の整理

計画に位置づけた目標ごとの取組の方向(第4章)に紐づく取組みを網羅的に列記。
優先的(段階的)に取り組むテーマ/プロジェクトを選定。

イメージ:第2次都心まちづくり計画の展開プログラム
※民間の取組も記載できることを調整

④ 当面、戦略的に実施するプロジェクト

3つの目標それぞれに関わりあう切り口で抽出し、具体的な実現に向けたロードマップまで示す
イメージ:エネルギーアクションプランにおける「プロジェクト」/「戦略的取組テーマ」

テーマ (名称・切り口は検討中)	取組案 (検討中のため、一例)
3つの目標を一体的に実現するための開発誘導	・Eまちの強化・拡充(協議対象の拡大、評価方法の再検証、認定制度と各種支援策の連携)
ウォーカブル推進	・主要検討路線の将来像の検討 ・社会実験の検討 ・公共的空間活用ガイドライン策定、周知・運用
エリアまちづくり推進	・地区まちづくり制度の見直し検討 ・展開拠点のガイドライン検討
発信	・計画の周知(パンフレット作成、シンポジウム) ・都心の効果的なプロモーション手法の検討

- 次年度以降に向け、計画の実効性を高めるための視点
- 2年間の検討会の総括 など